



# 自覚症状のない深刻な病氣

学校は「同じ」を求めるのは得意です。

しかし「違い」を認めるのは苦手です。

これには、日本の歴史的背景や民族的精神性などが大きくかかわっています。

特に思春期を迎えるころになると、その傾向は強くなります。

以前、ピア・プレッシャーの話をチラリとしたことがあります。

ピア・プレッシャーとは、仲間からの圧力の事。

「同調圧力」「同化圧力」とも言われます。

仲間内で、皆と同じことを求めたり、求められたりするような、無言の圧力のことを指します。

特に顕著に表れるのが小中学生の思春期であり、中でも女子に多い傾向が見られます。

この時期は、仲間に自分がどう見られているかが特に気になる時期です。

だからこそ、ピア・プレッシャーの影響を受けやすいと言われています。

教室では、このピア・プレッシャーの危なさや難しさについても幾度かに分けて話しをすることにしています。

行き過ぎた同調圧力は、「おしつけ」や「強要」になる可能性が十分にあり、「いじめ」へと発展してしまうことも少なくありません。

「同じ」を求めるあまり、相手と自分が少し違うだけで攻撃を始めてしまう様な場合さえあるからです。

ピア・プレッシャーの話を最初にした時は、斉藤孝さんの『そんな友達ならいなくてもいいじゃないか』という作品を紹介しながら、まず周りとの

ような関係を築いていきたいのかを話しました。

斉藤さんは、「つるむ」と「友だち」は別のものであることを明確に伝えて  
います。

そして、次の点も著書の中で強調されていました。

いくら仲の良い友だちだって、気の合う友達だって、別の人間です。  
違う所があって当たり前だし、全部同じなんて事は絶対にあり得ません。

そして、次のことも付け加えました。

これが分かっていない人は、どうしても友だちとの関係が薄っぺらくなり  
ます。相手が自分と少し違うだけで、冷たくしたり攻撃したりするのは、ま  
さにその典型です。同じことを続ける限り、永遠に深い関係の友だちはでき  
ません。斉藤さんのいう所の「つるんでいる」だけの関係です。

反対に、少しくらい嫌な所や違うところがあったとしても、それを含めて  
「大切な友達」と思えるような仲間が出来たとしたら、それはとっても素敵  
な事です。けれど、これは大人でさえ結構難しいことなんですよ。

みんなにもそんな友達や仲間ができるといいね、と話してその時は締めく  
くりました。

さて、この時、本の中から「友だちがいないと不安だ症候群」という症状  
についても話をしました。

同調圧力の影響を受けやすい人の特徴として、誰かと一緒にいないと不安  
で仕方なくて、だから常に誰かと行動を共にするという傾向が見られること  
があります。

これは、本物の病気ではないので、多くの場合、かかっている本人は気づ  
いていません。

でも、だからこそ「深刻」になりやすいといわれています。

その症状が様々な悩みや難しさを生み出しているにもかかわらず、自覚症  
状がないために改善がなされにくいのです。

昨日は、この「友だちがいないと不安だ症候群」に続いて、「失敗するのが怖  
くてたまらない症候群」を紹介しました。

これも、自覚症状はないですが非常に恐ろしい症状であるといえます。

これにかかっている人は、「失敗＝悪」「失敗＝恥ずかしいこと」と捉えて  
います。

それは、その本人の責任というよりも、周りの影響を多分に受けているこ

とが多いといえるでしょう。

失敗したときに笑われたり。

失敗したときにひやかされたり。

失敗したときに心無い言葉をかけられたり。

こういう経験の積み重ねによって、「失敗するのが怖くてたまらない症候群」は生み出されます。

この症状が起きると、行動やチャレンジができなくなります。

行動すると失敗する恐れがあるからです。

チャレンジすると失敗するリスクがあるからです。

すると、どうなるか。

行動しない→成長しない→行動しない→成長しない…という負のスパイラルが起きていってしまいます。

私は、これこそが本当の「大失敗」であると考えています。

一切の成長や成功が望めなくなってしまうからです。

可能性という名の宝物を、自分自身の手で摘んでしまっているからです。

だからこそ、チャレンジや行動を行って失敗したときの「周りの声かけ」は特に大切です。

以前も紹介しましたが、改めて載せておきます。

- 間違っただ人は、何もしない人より10倍賢くなります。
- その調子で間違いの山を作るんですよ。たくさん失敗した方が、絶対に上手になります。
- バツは挑戦者の勲章です。
- 間違いは人助けになります。同じ間違いをした人が、クラスに少なくとも5人います。
- 今の発言はいいヒントになりますね。
- これで正解に一步近づきました。
- これは宝物のバツですね。決して消さないでください。
- 〇回も間違えたの！？すごいね～何回間違えたか数えておくんですよ。
- 正解かどうかは大事じゃないんです。答えが出せるかどうかは大事なんです。
- 何度バツがついても問題に挑戦した〇〇くんを、先生は誇りに思います。
- 何回も間違えると、正解の瞬間が一層ワクワク感じられますね。
- 分からないことが分かったことが素晴らしい。

- 分からないことが分かるから勉強は面白いんです。大丈夫、この後ちゃんと分かるようになります。
- 芸術的なセンスを感じます。
- これはすごいです。初めての意見です。
- これは〇〇君しか考えつかない答えですね。さすがです。
- オリジナリティがあって良い。
- 面白い！
- 間違っ、失敗して、賢くなっていくんです。それがお勉強です。
- 考える方向性だけは見事に合っています。
- すごくいい間違い方です。才能を感じます。
- 惜しい！惜しすぎる！！
- 100点満点中の99点！
- 絶妙な間違い方です。ほとんど正解。
- 人生正解ばかりじゃつまりません。時に失敗して間違っから面白いんです。
- 間違いは成功のもとです。天才と呼ばれてきた人ほど、多くの失敗をしています。
- 人生七転び八起きです。何度間違えても、最後に起き上がる人が素晴らしいんです。
- 人間万事塞翁が馬といいます。この間違いが次にどう生きるか、楽しみですね。

今、教室では様々な「新境地」にチャレンジし始めている子たちがたくさんいます。

その挑戦の火は、最初はすごく儂くて小さな火です。

心無い一言で吹けば消えてしまうような灯だといえます。

だからこそ、もう一度、教室の中で誰かのチャレンジや失敗に対する「声かけ」の大切さを確認したのでした。

そして、どんな逆風にも負けないくらいの本気の失敗や本気の挑戦がいつかできるようにチャレンジを続けていこうと思います。

**☆↓読者ページはこちらから↓☆ご意見ご感想など気軽にお寄せください**

<https://docs.google.com/forms/d/1qqf4cPLcjpcWaimW>



[du-6IFM73JahODYK4ROldg7jLxM/edit](#)